

## 吃音に向き合うためのドキュメンタリー映像集

DVD 全3巻

ただ、そばにいる

企画・制作 北川敬一

### <はじめに>

NPO 法人・全国言友会連絡協議会の「中高校生の吃音のつどい」の協力のもとに、吃音のある子どもたちと、その周辺を、約3年間にわたり取材と撮影を行いました。カメラの前で小学生の子どもたちは、吃音についてまっすぐに向かい合い、話します。中学生たちは、どのように吃音のことをみんなに告白するかを、話します。高校生は、バイトや進路についての悩みを、話し合います。ご両親たちは、子どもへの思いを、話し合います。

### <制作動機>

企画・制作者自身が小学生の時がいちばん吃音がひどく、誰にも相談できずに悩んだ記憶があります。時が経つにつれ、もっと他の心配事がでてきて、子を持つ親となった現在、あの頃の小学生の自分に「吃音の映像」というモノがあれば、どのような映像が楽しいか、ホッとするかを基準に、ことばの教室や言語聴覚士の先生方、吃音をもつ子どものご両親、作家の重松 清さんと、相談を重ねながら自主制作をしました。

### <映像の目的>

このDVDは、ことばときこえの教室の先生がおられる小中学校や、吃音をあつかう言語聴覚士の先生がおられる病院で、視聴されるのが主な目的です。子どもたちの「しぐさ」や「ことば」をナマのまま、見せることが大切と思い、テレビでよく見かける、わかりやすい仕掛け（字幕・ナレーション・音楽）を、できるだけしないようにしました。視づらい、聴きづらいところもありますが、子どもたちのまじめな顔や笑顔の「向こう側」を、感じてもらえればと思います。

この小冊子には、以下の内容が掲載してあります。DVDの視聴前に参考にしていただければと思います。

- DVD・全3巻の簡単な内容の紹介
- ご家族（お母さん、お姉さん）、ことばときこえの教室の先生、言語聴覚士の先生の「吃音」に関する寄稿文
- 中高校生の吃音のつどい の簡単な説明
- 重松 清さんのプロフィール

## 吃音に向き合うためのドキュメンタリー映像集 ただ、そばにいる 全3巻の内容

このDVDは全3巻で構成されています。

吃音のある子どもたちが好きなところを鑑賞できるよう、ことばの教室や言語聴覚士の先生方が、子どもたちやご両親の気持ちにそって選択できるよう、3巻とも、チャプターごとに、わけてあります。

### 第1巻 どもっても いいんだよ (1時間47分40秒)

「どもっても いいんだよ」をキーワードにして

吃音のある子どもたちが、「吃音」について、友だちといるとき、家族でいるとき、1泊2日のサマーキャンプ！、さまざまところで、絵を描きながら、お菓子を食べながら、寝転びながら、ときに明るく、ときに真剣に話し合います。

オープニング (1分13秒)

第1章・絵を描いて気持ちを伝えよう (7分14秒)

吃音に関する3つのこと(しょうじょう、なやみ、まわりのはんのう)を、小学生が絵を描くことで表現し、発表します。

第2章・小学4年生 女の子 ふたりのはなし (18分07秒)

サマーキャンプ。窓からはいつてくる虫がとても気になるけど、女の子ふたりがじっくりと、吃音のこと、学校のこと、ともだちのことを話します。

第3章・どもること、みんなで話そう その1 (16分21秒)

小学生、スタッフ、ことばの教室の先生、みんなで吃音の体験談を話し合います。おとなしかった女の子も話し始めます。

第4章・小学3年生 女の子 ふたりのはなし (13分20秒)

「生まれ変わったら、自分に生まれたい?」「自分のことが好き?」と、女の子ふたりが、体育館のマットに寝転びながら、明るくまじめに話します。

第5章・小学生の男の子の家族のはなし (15分55秒)

3人兄弟の男の子の家庭にカメラがはいました。ご両親にもインタビューをしています。2年後に再び訪れると・・・。

#### 第6章・どもること、みんなで話そう その2 (5分06秒)

サマーキャンプ。大学生が、子どもの目線になり、小学生に吃音のことをストレートに問いかけます。遊ぼうと思っていた小学生たちは、どうする？

#### 第7章・小学生とおとな ふたりのはなし (4分34秒)

社会人（理学療法士）が小学生に、仕事をするときに 吃音とどのようにつきあっているかを話します。

#### 第8章・小学生の女の子の家族のはなし (15分50秒)

吃音の悩みが少なくなった3人姉妹の女の子の明るい家庭に、カメラがはいりました。女の子は、絵本「どもるって なに？」を作りました。

#### 第9章・ミネストローネ (6分44秒)

子どもたちが「お料理教室」に参加。スタッフにフォローをしてもらい料理を作っていくと、みるみるうちに、柔らかな表情に変わっていきます。

#### エンディング (3分16秒)

## 第2巻 大きくなったら どうする？ (1時間58分18秒)

「大きくなったら どうする？」をキーワードにして

吃音の先輩である中高校生や社会人が、アルバイトや進路の話し合いをしたり、ご両親が、子どもにたいする思いを話し合います。

#### オープニング (1分13秒)

#### 第1章・中学生になったら (5分09秒)

中学校の国語の時間。言葉がつまったとき、先生に途中で話をまとめられてしまった中学生の女の子。授業のあと、女の子が先生に伝えたことは・・・。

#### 第2章・大学生も、どもる気持ちを絵に描いてみたよ (2分49秒)

スタッフである大学生も、小学生と一緒に絵を描いて「吃音の気持ち」を素直に発表します。小学生たちも静かに聞いています。(第1巻・1章参照)

#### 第3章・高校たちのはなし その1 (10分47秒)

高校生が、進路のこと、大学受験のこと、アルバイトのことを、スタッフと

相談しながら話し合っていきます。

第4章・高校生のアルバイトを、みんなでやってみる（10分07秒）

女子高生が、スタッフと一緒にアルバイト（パン屋さん）を再現しながら「吃音であることで困ったこと」を話し合います。

第5章・高校生の女の子の、お母さんのはなし（4分31秒）

お母さんが、吃音のある子ども（高校生）について、以前と比べてつきあい方が変わりつつあること（成長）を話します。

第6章・高校生たちのはなし その2（5分18秒）

「吃音をハンデと思う？吃音を言い訳にしている？吃音じゃなかったら？」というスタッフの質問に、高校生たちが答えていきます。

第7章・お母さんたちが、小学生になり、どもることになったら（11分33秒）

ご両親とスタッフで「小学校の国語の授業」を再現します。ことばがつまったとき・・・他の小学生（おとな）は、どうする？

第8章・お母さんたちの、どもったこと感想（14分27秒）

子どもの吃音を初めて体験したお母さんたちが、どのように感じたか、みんなで話し合います。（第7章・参照）

（※「身障」（しんしょう）の発言をする社会人は、小3の時に自身の「吃音」のことを、友達から「身障」と言われたそうです。）

第9章・お母さんたちのはなし（13分47秒）

お母さんが、吃音のある子どもと、どんなふうに関わっているか、どんな悩みがあるかを話し合います。お父さん、大学生、小学校の先生も参加。

第10章・高校生たちのはなし その3（9分15秒）

新学期、自分から吃音のことを友達に話すか？という話題を中心にスタッフと高校生が話し合っていきます。

第11章・高校生の女の子の家族のはなし（14分58秒）

大学入学が決まり、初めて一人暮らしをする高校生の女の子。お母さんとお姉さんがあつまり、親子3人でそれぞれの「吃音観」を卒直に語り合います。

第12章・大学生は、どもること、どう思ってる（11分08秒）

社会人（薬剤師）になることが近づきつつある大学生。

これからどうやって吃音とつきあっていくかを、明るく話します。

エンディング（3分16秒）

### 第3巻 話すことは 生きること（1時間38分02秒）

「話すことは、生きること」をキーワードにして

- ・作家・重松 清さん からのメッセージ
- ・中学生からのメッセージ
- ・小学生から社会人までの28名の「ひとこと」 をまとめています

オープニング（1分13秒）

#### 第1章・特別協力 重松 清さん ロングインタビュー（51分30秒）

この映像の企画段階から協力していただいた「きよしこ」「青い鳥」の

作家・重松 清さんの吃音に関するロングインタビューです。

小学生からの質問にも、こたえていただきました。

- ・重松さんにとって 吃音は、良い、悪い？
- ・自分の吃音を隠していましたか？
- ・夢を叶えるとき、吃音はハンデになりましたか？
- ・吃音でからかわれたときは、どうしましたか？
- ・子供の頃 家族で吃音の話題や相談はありましたか？
- ・出口のない悩み（吃音）について
- ・生まれ変わりたいくない子どものはなし
- ・お母さんたちへのメッセージ
- ・吃音のある子どもたちへのメッセージ

#### 第2章・中学生の女の子 みんなの前でどもることをはなした（9分29秒）

中学生の女の子（第2巻・第1章）が、自身の吃音のことを「ともに」という  
題で、大勢の前（中学校生徒意見発表会）で発表します。

#### 第3章・小学生へ・・・みんなからのメッセージ（22分31秒）

吃音のある、28名のみんな（中学生、高校生、学生、社会人、そして小学生）

が吃音のある小学生に向けて、伝えておきたい「ひとこと」を話します。  
インサートされる写真は、本人たちの子どもの頃のお気に入りの写真です。

第4章・ミネストローネ (10分03秒)

子どもたちが「お料理教室」に参加。スタッフにフォローをしてもらい料理を作っていくと、みるみるうちに、柔らかな表情に変わっていきます。  
第1巻・第9章と違い、冒頭にスタッフからの一言を加えてあります。

エンディング (3分16秒)

## 関係者の方々の 「吃音」 に関する寄稿文

### ◎「ありのまままで」

吉田 雅代さん (小学生の子どものお母さん)

我が家の3兄弟の次男は「吃音」です。

「きつおん」と聞いて、それがわかる人はどれくらいいるでしょう？

息子が吃ること、家ではごく当たり前の日常です。

吃音のことも普通に話題にのびります。でも、一歩外へ出ればそうではありません。吃音を通じて出会えた沢山の人達のおかげで、今でこそ何があっても大丈夫だと思えるようになりましたが、親子で涙を流したことは数知れず。吃音自体の真似や、からかいだけではなく、本人自身が抱える問題として、そしてときには善意からの言葉にさえ傷つくこともありました。

「僕は大事な言葉がちゃんと言えない。お父さん、お母さん、ありがとう、おめでとう・・・ア行がつかえちゃってどうしても言えない。」

と泣いたこと・・・

『お弁当食った』『腹減った』って言ってるけど、本当は『お弁当食べた』『お腹すいた』って言いたいんだ。」と目に涙を沢山ためて呟いたこと・・・  
思い出すだけでも胸が痛くなります。

1人でも多くの人に「吃音」を、「吃音者が抱える思い」を知って欲しいと思います。

吃音の子ども達が、ありのままに、いられるように、自分の言葉で言いたいことを話せるように、無口なふりをすることなど、ないように、  
息子が以前、日記に書いた「どもることは、ぼくのマークです！」と堂々と言えるように。

それが私達家族の切なる願いです。

## ◎「自分の一部」

### ○菊地 香央莉さん（「つどい」のスタッフ 大学生）

私が近親者以外の吃音者に会ったのは5年前の「つどい」のスタッフミーティングでした。妹以外の吃音がある人との初めての出会いでした。どもる人をどういう態度で聞いたらいいのかわからずに悩み、ミーティングが終わり家に帰る度に涙が出てきました。

それでも月日を重ねるごとに、「つどい」を通して知り合った友人とたくさん、話しをしました。話すことを通して、私の意識が変わったことを感じました。吃音に対する考え方も1人1人違うこと、同じ人でも、ある対応に対しての感情はTPOに応じて変化することを感じました。その中でも、今どう聞くべきか相手がどう感じているかわからずに悩むことはありました。

最近では、吃音の有無ではなく、その人だから感じたり思ったりするのか、と考えます。吃音ではなくても、その人だったから見つけたり考えたりしたかもしれない、とも思います。反対に、その人に吃音があったことで、視点が増えて良いことも悪いことも見つけやすくなることもある、と感じさせられました。また、吃音の受けとめ方も人それぞれであり、1人1人違っていいのかと思っています。

吃音に限らず、誰かの一部（吃音等）を、他人が「好きになった方がいいよ」「受容できたらいいね」というのは、おかしい気がします。吃音がある人もない人も、自分の一部を好きとか受容したとかではなく、自分の一部と「向き合った」ことが大切なのかと思います。

## ◎「ことばの教室」の担当者として

### 松村 玲子さん（豊島区立池袋小学校 ことばときこえの教室・教諭）

「吃音」は人類が言語を使うようになって以来の課題（悩み）といわれているように、とても深く重い課題です。吃音をもつ子どもたちは、生活の中でたびたび不安な思いを抱いています。例えば授業での発表や音読、日直での発言、友だちとの会話等々です。

担当者は、これら子どもが感じる不安に少しでも寄り添って子どもの話に耳を傾けて子どもと関わっていくべきでしょう。そして、担当者は自分なりの「吃音観」をもつことが必要ではないでしょうか。私は、吃音をもつ子どもに限らず、子どもたちには自分の考えを伝えられる自立した社会人になってほしいと思っています。

そのために担当者がすべきことは、「子どもの今を認めること」だと考えて

います。「吃っていてもいいんだよ」「思っていることを言おう」「まずは行動することだよ」「それでいいよ」等のことばをかけたたり、子どもの活動を担当者自身が見てそれを認めたりを、日々の指導で積み重ねることだと思えます。小学校時代に自分のありのままが認められ、自己肯定感をもてるようになれば、思春期以降も自分の身の上で生じた課題に向き合うことができると思っています。

担当者の自己満足ではない、保護者とも共感しながら指導を進めていくことも必要です。

子どもたちが前向きに生きていける将来を築けるように、小学校時代にできる支援を考え続けたいと思います。

## ◎ 『旅』の友に」

**坂田 善政さん（国立障害者リハビリテーションセンター学院・言語聴覚士）**

私は言語聴覚士です。ことばや聞こえのことで困っている人を支援する仕事をしています。吃音のある子どもやその親御さんも、たくさん相談に来られます。

言語聴覚士は、吃音のある子どもが安心して過ごせるような環境を作るお手伝いをしたり、どうすればことばが楽に出るか一緒に考えたり、つかえて話すことがそれほど気にならなくなるようにお手伝いをしたりします。その変化のプロセスは時に長期に渡り、長い旅のようだと感じることもしばしばです。

この「旅」を続ける上で、ただ、そばにいてくれる、そんな人の存在がどれだけ心強いのか。

この映像集は、吃音のある子どもたちや保護者の方、そして周囲の方が吃音について理解を深める上で、そして「自分だけじゃないんだ」という安心感をもつ上で、大きな力になるものだと思います。

たくさん子どもたちや保護者、そしてことばの教室や言語聴覚士の先生方が、この映像集を「旅」の友として得られることを願ってやみません。

## ※中高校生の吃音のつどい（つどい代表・佐藤隆治さん 作成）

セルフ・ヘルプ（自助）グループである NPO 法人・全国言友会連絡協議会に属する「中高校生の吃音のつどい実行委員会」が運営している。

吃音を持つ小学生、中学生、高校生とそのご家族が、吃音について話し合える・相談できる場を提供するため、年4回関東地方にて、イベントを開催している。



つどいで大切にしていることは、「話し合い」と「スタッフの心構え」である。

・「話し合い」は、吃音に向き合い、吃音について語り合うことを通して、一人ぼっちではないこと、隠す必要がないこと（オープンにしてよいこと）、吃音は悪いことばかりではないこと（むしろ自分にとって大切なもの？）を体感していく大切な活動である。

・「スタッフの心構え」は、上から目線ではなく、参加者と共に生きていくという対等の立場で、参加者の声をまずゆったりと丁寧に聴かせていただくこと。吃音の先輩として自分の経験（どもる事との付き合い方）を話しはするが、考え方を押し付けないことである。

体験を聞いた参加者は、今の自分と比べ、また、自分の将来と重ね合わせて、自己を見つめていき、スタッフは、それまでの自分を振り返り、吃音についてさらに考える良い機会ともなる。

NPO 法人・全国言友会連絡協議会ホームページ

<http://www2m.biglobe.ne.jp/~genyukai/>

中高校生の吃音のつどいホームページ

<http://tsudoj.kitsuon.org/>

### ※重松 清（しげまつ きよし）さん・略歴

1963年 岡山県生まれ。

早稲田大学教育学部卒業。

出版社勤務を経て執筆活動に入る。

1999年「ナイフ」で坪田譲治文学賞・「エイジ」で山本周五郎賞を受賞。

2001年「ビタミンF」で直木賞を受賞。

2010年「十字架」で吉川英治文学賞を受賞。

「きよしこ」「青い鳥」「流星ワゴン」「疾走」「きみの友だち」「定年ゴジラ」

「その日のまえに」「きみ去りしのち」「あすなる三三七拍子」など著書多数。

学校での子どものいじめや不登校、家庭崩壊と子どもなど、現代の社会問題・教育問題のなかで、小説で取り上げられることの少なかった問題を丹念に拾い上げ、注目を浴びる。

矢沢永吉、吉田拓郎のファン。

お問い合わせ先 . . . . .

北川 敬一 (企画・制作)

〒338-0824 埼玉県さいたま市桜区上大久保 904-10 A-707

TEL&FAX 048-852-6201

携帯 TEL 090-1053-9388

Email : [sky-wind707@kvj.biglobe.ne.jp](mailto:sky-wind707@kvj.biglobe.ne.jp)